



# グラスフィアジャパン デジタルビデオレコーダー

---

## 取扱説明書 GUI4.3.0 rev.1

[対象型番]

GJ-FV7204HD-M1A

## 目次

0. はじめに .....	1
0.1. このマニュアルについて .....	1
0.2. 免責事項 .....	1
0.3. 記号の定義 .....	2
1. スタートアップ .....	3
1.1. デバイスのアクティベーション .....	3
1.2. ログイン .....	5
1.3. ホーム画面 .....	7
2. ライブビュー .....	8
2.1. GUIの概要 .....	8
2.2. PTZ制御 .....	9
3. 再生 .....	13
3.1. GUIの概要 .....	13
3.2. 通常の再生 .....	14
3.3. Smart再生 .....	15
3.4. カスタム検索&カスタム再生 .....	17
3.5. ビデオクリップのバックアップ .....	19
4. ファイル検索 .....	20
4.1. ファイル検索方法 .....	20
5. カメラ .....	21
5.1. カメラ管理 .....	21
5.1.1. ネットワークカメラ .....	21
5.2. カメラ表示 .....	26
5.3. プライバシーマスク .....	27
5.4. ビデオパラメータ .....	28

## 目次

6. ストレージ.....	29
6.1. スケジュール .....	29
6.1.1. 録画 .....	29
6.2. ストレージデバイス .....	32
6.3. ストレージモード .....	34
6.4. 詳細設定 .....	36
6.5. クラウドストレージ .....	37
7. システム.....	38
7.1. 一般的なコントロール .....	38
7.2. ユーザー設定.....	40
7.3. ネットワーク設定 .....	43
7.3.1. TCP/IP .....	43
7.3.2. 詳細設定 .....	47
7.4. イベント .....	53
7.4.1. 通常イベント .....	53
7.4.2. スマートイベント .....	62
7.5. ライブ表示 .....	71
8. メンテナンス .....	74
8.1. システム情報 .....	74
8.2. ログ情報 .....	74
8.3. インポート/エクスポート .....	74
8.4. アップグレード .....	75
8.4.1. ローカルアップグレード .....	75
8.4.2. FTP .....	75
8.4.3. オンラインアップグレード .....	75
8.4.4. カメラのアップグレード .....	75
8.5. デフォルト .....	76

## 目次

8. メンテナンス .....	74
8.6. ネットワーク設定 .....	76
8.7. HDDの動作 .....	77
8.7.1. S.M.A.R.T .....	77
8.7.2. 不良セクタ検出 .....	77
8.8. システムサービス .....	77
8.8.1. システムサービス .....	77
8.8.2. ONVIF .....	78
9. アラーム .....	79
9.1. イベントヒントの設定 .....	79
9.2. アラームセンターでのアラーム表示 .....	79
10. Web操作 .....	80
10.1. ログイン .....	80
10.2. ライブビュー .....	81
10.3. 再生 .....	81
10.4. 構成 .....	82
10.5. ログ .....	82

## 0. はじめに

### 0.1. このマニュアルについて

このマニュアルには製品の使用および管理についての指示が含まれています。ここに記載されている写真、表、画像などの情報はすべて、説明のみを目的としています。このマニュアルに含まれる情報は、ファームウェア更新やその他の理由で事前の通知なく変更されることがあります。

このマニュアルの最新版については GraspHERE の Web サイト (<https://www.graspHERE.com/>) をご確認ください。この製品に関するサポート訓練を受けている専門家の指導や援助を受けた上でこのマニュアルを使用してください。

### 0.2. 免責事項

適用法により許容される範囲内で、このマニュアル、記載の製品とそのハードウェア、ソフトウェアおよびファームウェアは、あらゆる不具合や瑕疵を含め、現状有姿で提供されるものとします。GRASPHERE では明示の有無によらず一切の保証（商品性、十分な品質、特定の目的に対する適合性を含むが、これらに限定しない）を行いません。この製品は、ユーザーの責任で使用してください。GRASPHERE は、この製品の利用に関連する事業利益の損失や事業妨害、データの損失、システムの破損、文書の損失に関する損害を含む特別、必然的、偶発的または間接的な損害に対して、契約の違反、不法行為（過失を含む）、製造物責任、その他を問わず、たとえ GRASPHERE がそれらについて通知を受けていたとしても、一切の責任を負いません。

ユーザーは、インターネットの性質上、セキュリティリスクが内在していることを承知するものとし、GRASPHERE は、異常操作、プライバシー漏えいまたはサイバー攻撃、ハッキング、ウィルス検査やその他のインターネットセキュリティリスクから生じるその他の損害に対して一切の責任を負わないものとし、ただし、必要に応じて GRASPHERE は適宜技術サポートを提供します。

ユーザーは、この製品をすべての適用法に従って使用することに同意するものとし、使用方法が適用法に準拠するようにすることについては、ユーザー自身が一切の責任を負うものとし、特に、ユーザーは、第三者の権利（パブリシティ権、知的財産権、データ保護、および他のプライバシー権を含むが、これらに限定しない）を侵害しない方法でこの製品を使用することに責任を負います。ユーザーはこの製品を、大量破壊兵器の開発または製造、生物化学兵器の開発または製造、いかなる核爆発物または安全でない核燃料サイクルに関連する状況または人権侵害の支援での一切の活動を含む、いかなる禁止された最終用途にも使用しないものとし、

このマニュアルと適用法との間に矛盾が存在する場合は、後者が優先されます。

## 0. はじめに

### 0.3. 記号の定義

このマニュアルで使用する記号は以下のように定義されています。

記号	説明
 危険	防止できなかった場合に死亡や重傷を招くおそれのある危険な状況を示します。
 注意	潜在的に危険となりうる状況を示しており、防止できなかった場合、機器の損傷、データの消失、性能劣化など、予測不能な結果が生じる可能性があります。
 注記	本文内の重要事項を強調または補足する追加情報を提供します。

# 1. スタートアップ

## 1.1. デバイスのアクティベーション

初回アクセス時は、管理者パスワードを設定してビデオレコーダーを起動する必要があります。パスワード設定前はシステムの操作ができません。また、Webブラウザ、SADP、またはクライアントソフトウェアを使用してビデオレコーダーを起動することもできます。

### 開始前に

デバイスの電源を投入します。

### ステップ

- (1) 「言語」を選択します。
- (2) [適用]をクリックします。
- (3) 「新しいパスワード作成」と「新しいパスワード確認」に同じパスワードを入力します。
- (4) デバイスに接続されているネットワークカメラを起動します。

#### ⚠注意

製品の安全性を高めるために、お客様が選択する強度の高いパスワードを作成することを強くお勧めします(大文字、小文字、数字、特殊文字の3つ以上を含む、最低8文字を使用してください)。また、定期的にパスワードをリセットすることをお勧めします。特にセキュリティの高いシステムでは、パスワードを毎月または毎週リセットすることで、製品をより良く保護することができます。

- ネットワークカメラを起動するには「チャンネルのデフォルトパスワード」にパスワードを入力します。(基本的には(3)のパスワードと同じものを入力します。)
- (5) [OK]をクリックします。



The screenshot shows a web interface for device activation. It includes a text input field with 'admin' entered, a '新しいパスワード作成' (Create new password) button, a password strength indicator (three bars), a '新しいパスワード確認' (Confirm new password) button, a checked checkbox for '保存されたEメール設定' (Save email settings) with a help icon, and a 'チャンネルのデフォルトパスワードの作成' (Create channel default password) button. Below these is a note: '有効なパスワード範囲は8-16しか、数字で、小文字、大文字、特殊な文字の2種類以上の組み合わせは必要です。' (Valid password range is 8-16 characters, must include numbers, lowercase, uppercase, and special characters from 2 or more categories).

図1-1 アクティベーション

# 1. スタートアップ

## 1.1. デバイスのアクティベーション

### 次のステップ

ウィザードに従って基本パラメータを設定します。

- パスワードを忘れた場合、リセットするには、弊社へレコーダを送付頂く必要があります。（有償）
- ロック解除パターンの場合、詳細は「**1.2 ロック解除パターン設定**」を参照してください。
- 一般的なシステムパラメータの場合、詳細は「**7.1 一般的なコントロール**」を参照してください。
- 一般的なネットワークパラメータの場合、詳細は「**7.3 ネットワーク設定**」を参照してください。
- ストレージ・デバイス構成の場合、詳細は「**6.2 ストレージデバイス**」を参照してください。
- ネットワークカメラを追加する場合、詳細は「**5.1.1 ネットワークカメラ**」を参照してください。

# 1. スタートアップ

## 1.2. ログイン

### ロック解除パターンの設定

Adminユーザーは、ロック解除パターンを使用してログインできます。

デバイスがアクティブになった後、ロック解除パターンを設定できます。

**i** 注記

- 各ドットを重複してパターンを描くことはできません。1ドット1回のみ通過するパターンを描いてください。
- パターンは少なくとも4ドット以上通過して描く必要があります。

設定したパターンを確認するために、再度同じパターンを描きます。

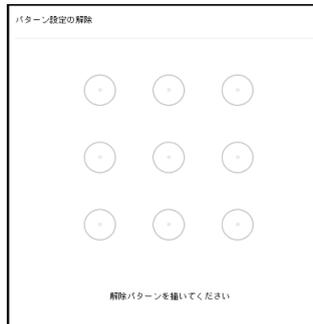


図1-2 ロック解除パターンの設定

初回のパターンと確認のパターンが一致すると、正常に設定されます。

### ロック解除パターンでログインする

#### ステップ

- (1) ライブビュー上でマウスを右クリックします。

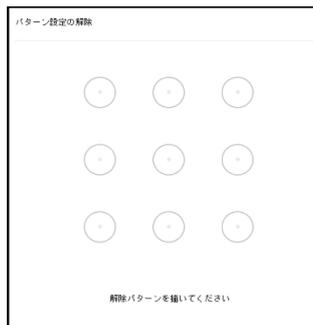


図1-3 ロック解除パターンの描画

- (2) あらかじめ設定したパターンを描いて「メニュー操作」に入ります。

**i** 注記

- パターンを忘れた場合は「My Patternを忘れた」または「ユーザーを切り替える」をクリックして、パスワードでログインします。
- 間違ったパターンを5回以上描いた場合、システムは自動的に通常のログインモードに切り替わります。

# 1. スタートアップ

## 1.2. ログイン

### パスワードでログインする

ビデオレコーダーがログアウトしている場合、メニューなどの機能进行操作する前にログインする必要があります。

### ステップ

- (1) 「ユーザー名」を選択します。



図1-4 ログインインターフェース

- (2) パスワードを入力します。
- (3) [ログイン]をクリックします。

#### **i** 注記

- 管理者のパスワードを忘れた場合は[パスワードを忘れた場合]をクリックして、パスワードをリセットすることができます。
- 誤ったパスワードを7回入力すると、現在のユーザーアカウントは60秒間ロックされます。

# 1. スタートアップ

## 1.3. ホーム画面

ログイン後、表示されている画面左上の  マークをクリックする、または右クリックをするとホーム画面に遷移します。（※右クリックはマーククリックではなく、ライブビュー画面以外のすべての画面で有効です。）



図1-5 ホーム画面

### ステップ

(1) 2.x.…ライブビュー

ライブビュー画面の概要及びPTZコントロール設定について記載しています。

(2) 3.x.…再生

録画ファイル再生画面の概要及び録画ファイルの検索について記載しています。

(3) 4.x.…ファイル管理

ストレージに保存されているファイル管理について記載しています。

(4) 5.x.…カメラ

カメラ管理、追加方法、画像設定について記載しています。

(5) 6.x.…ストレージ

録画スケジュール、ストレージデバイスの管理について記載しています。

(6) 7.x.…システム

基本設定、ネットワーク設定、ユーザー管理、イベント検知、ライブ表示について記載しています。

(7) 8.x.…メンテナンス

システム情報、ログ情報、初期化、HDD動作について記載しています。

## 2. ライブビュー

### 2.1. GUIの概要

-  をクリックすると、「オートスイッチ」が起動/停止します。自動的に次画面に切り替わります。
- カメラを右クリックするか、 をクリックして「フルスクリーンモード」にします。
- カメラをダブルクリックして「シングルスクリーンモード」で表示します。  
もう一度ダブルクリックすると「シングルスクリーンモード」を終了します。
- エラーが発生すると、画面にエラー内容が表示されます。エラーによっては、画面をクリックして「解決操作」に直接アクセスすることができます。
- カメラのライブビュー画面を画面から希望の画面にドラッグして変更します。
- カーソルをカメラに合わせて、ショートカットメニューを表示します。

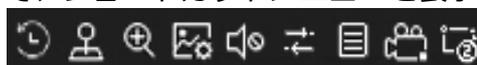


図2-1 ショートカットメニュー

表2-1 ショートカットメニューの説明

ボタン	説明
	最新5分間で録画した動画の再生を開始します。
	クリックするとPTZ制御モードになります。
	デジタルズーム。ズームイン時間を調整したり、希望するエリアを表示したりできます。
	画像調整メニューを表示し、設定を行うことができます。
	ライブビューオーディオのオン/オフを切り替えます。
	プレビュー計画を変更できます。
	チャンネル情報を表示します。
	録画の開始/停止を切り替えます。
	ビデオストリームを切り替えます。

- ライブビューインタフェースでは、各カメラの画面右上隅にカメラの録画とアラーム状態を示すアイコンが表示されます。

表2-2 ライブビューアイコンの説明

アイコン	説明
	イベントを検知していることを表します。
	録画状態であることを表します。

## 2. ライブビュー

### 2.2. PTZ制御

#### PTZパラメータの設定

PTZカメラを制御する前に、PTZパラメータを設定する必要があります。

#### ステップ

- (1) ライブビューでカメラをプレビューし[ショートカットメニュー  ]をクリックします。



図2-2 PTZ設定

- (2) [PTZパラメータ] をクリックします。
- (3) PTZカメラのパラメータを設定します。
- (4) [OK]をクリックします。

#### 注記

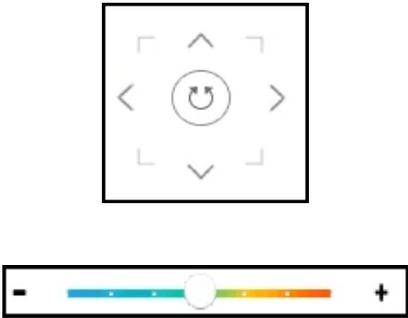
すべてのパラメータはPTZカメラと同じでなければなりません。

## 2. ライブビュー

### 2.2. PTZ制御

#### PTZコントロールパネルの紹介

表2-3 PTZパネルの説明

アイコン	説明
	<p>方向ボタン/自動巡回ボタン。</p> <p>PTZの移動速度を調整</p>
	ズームインは+/ズームアウトは-。
	フォーカスは+/ブラーは-。
	虹彩+/-。

#### プリセットのカスタマイズ

イベント発生時にPTZカメラが指す位置を設定します。

#### ステップ

- (1) ライブビューでカメラをプレビューし[ショートカットメニュー  ]をクリックします。
- (2) プリセット展開ボタン 、またはプリセット設定ボタン  を押します。
- (3) 方向ボタンを使用してカメラを必要な位置に移動させた後、ズームとフォーカスを希望に合わせてます。
- (4) プリセット展開ボタン  で設定する場合、設定したいプリセット番号の画像をクリックします
- (5) プリセット設定ボタン  で設定する場合、[設定する番号][プリセット名称]を設定し、[適用]ボタンをクリックします。

#### 次のステップ (プリセットの呼び出し)

- (1) プリセット展開ボタンから呼び出す場合、 をクリックした後、呼び出したいプリセットをダブルクリックします。
- (2) プリセット設定ボタンから呼び出す場合、 をクリックした後、呼び出したいプリセット番号を選択し、[コール]ボタンをクリックします。

## 2. ライブビュー

### 2.2. PTZ制御

#### パトロールのカスタマイズ

パトロールとは、指定されたシーケンスを持つ一連のプリセットで構成されるパスのことです。このカスタマイズは、複数のプリセットをモニターするためのダイナミックライブイメージを提供します。

#### ステップ

- (1) ライブビューでカメラをプレビューし[ショートカットメニュー  ]をクリックします。
- (2) [パトロール]をクリックします。
- (3) 設定するパトロール番号を選択し、 をクリックします。
- (4)  をクリックします。
- (5) 「プリセット番号」「速度」「巡回時間」、3つのキーポイントパラメータを設定します。  
[プリセット番号]は、パトロールで呼び出されるプリセットを指定します。  
[速度]は、PTZが1つのキーポイントから次のキーポイントへ移動する速度を定義します。  
[巡回時間]は、PTZが1つのキーポイントに留まる時間を設定します。

キーポイント	
プリセ...	Camera1Prese ▾
速度	1 ▾
巡回時間	15 ▾
<input type="button" value="適用"/> <input style="background-color: #cccccc;" type="button" value="キャン..."/>	

図2-3 パトロール設定

- (6) PTZカメラのプリセット位置が決まったら[適用]をクリックします。
- (7) すべての設定が完了したら[適用]をクリックして反映します。

#### 次のステップ (パトロールの実行)

「パトロール」を選択して  をクリックします。

PTZカメラはあらかじめ定められたキーポイントに従って移動します。

## 2. ライブビュー

### 2.2. PTZ制御

#### パターンのカスタマイズ

パターンは特定の位置における移動経路および滞留時間を記録します。

パターンを呼び出すと撮影したパスに合わせてPTZカメラが動きます。

#### ステップ

- (1) ライブビューでカメラをプレビューし[ショートカットメニュー ]をクリックします。
- (2) [パターン]をクリックします。
- (3) パターンを選択します。
- (4)  をクリックします。
- (5) 方向ボタンを使用して、カメラを必要な位置に移動させ、ズームとフォーカスを環境に合わせて適切に設定します。
- (6)  をクリックします。以前のPTZカメラの移動経路は、パターンとして記録されます。

#### 次のステップ (パターンの呼び出し)

パターンを選択し、 をクリックして呼び出します。

PTZカメラは、あらかじめ設定されたパターンで移動します。

## 3. 再生

### 3.1. GUIの概要

「再生画面」に移動します。

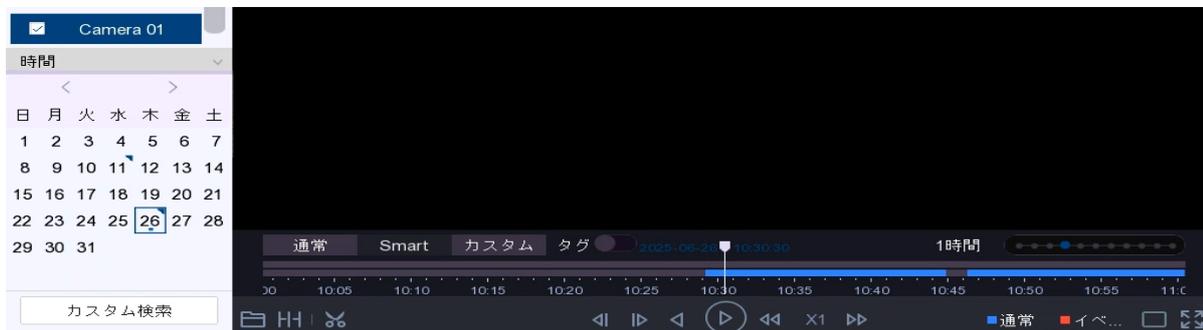


図3-1 再生

表3-1 再生インターフェースの説明

ボタン	操作	ボタン	操作
	30秒前に戻る。		30秒後に進む。
	逆再生を開始。		再生を開始。
	再生速度を遅くする。		再生速度を速くする。
	現在の再生速度表示。		全画面表示。
	分割表示。		外部ファイル選択。
	サブ期間再生。		クリップの作成。



図3-2 タイムライン

- カーソルをタイムライン上に置き、タイムラインをドラッグして再生したい時間位置に移動できます。
- 青色のバーでマークされた期間にはビデオが含まれます。  
赤いバーは、期間中のビデオがイベントビデオであることを示します。
- ズームアウト/タイムラインを切り替えるには、上下にスクロールします。

## 3. 再生

### 3.2. 通常の再生

イベント発生の無い通常の録画映像を再生します。

#### ステップ

- (1) 「再生画面」に移動します。
- (2) カメラ一覧からカメラを選択します。
- (3) カレンダーで再生する日付を選択します。

#### **i** 注記

カレンダー日付の角にある青色の三角は、使用可能なビデオがあることを示します。  
たとえば、<sup>11</sup> はビデオが使用可能であることを意味します。<sup>12</sup> はビデオがないことを意味します。

- (4) オプション:カーソルを再生ウィンドウに置き、コントロールバーを表示します。

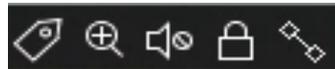


図3-3 コントロールバー

表3-2 ボタンの説明

ボタン	操作	ボタン	操作
	タグを追加。		デジタルズーム。
	オーディオのオン/ オフを切り替え。		ビデオをロック/ ロックを解除。
	再生画面に線を引く。		

## 3. 再生

### 3.3. Smart再生

#### 再生画面

「Smart再生モード」を選択すると、システムは「モーション検出」「ラインクロス検出」または「侵入検出情報」を含むビデオを分析およびマーク付けします。

#### ステップ

- (1) 「再生画面」に移動します。
- (2) カメラを選択します。
- (3) [Smart]をクリックします。



図3-4 Smart再生

#### GUIの概要

ここでは通常の再生画面に存在しないGUIのみを取り扱います。

表3-3 Smart再生インターフェースの説明

ボタン	操作	ボタン	操作
	再生ストラテジーを設定する。		人物検知ビデオのみを表示する。
	車両検知ビデオのみを表示する。		

## 3. 再生

### 3.3. Smart再生

#### 再生ストラテジー

録画ファイルの再生ストラテジーを設定します。

#### ステップ

- (1) 「再生画面」に移動します。
- (2) カメラを選択します。
- (3) [Smart]をクリックします。
- (4)  をクリックしてパラメータを設定します。



図3-5 再生ストラテジー

#### 通常のビデオを再生しないでください

有効にすると、スマート情報/カスタム検索ではない動画は再生されません。

デフォルトでは有効の状態になっています。

#### ノーマルビデオ

通常のビデオ再生速度を設定します。このオプションは「通常のビデオを再生しないでください」が無効になっている場合にのみ有効です。

#### スマート/カスタムビデオの再生速度

スマート情報/カスタム検索の動画の再生速度を設定します。このオプションは「通常のビデオを再生しないでください」が無効になっている場合にのみ有効です。

- (5) [OK]をクリックします。

## 3. 再生

### 3.4. カスタム検索&カスタム再生

#### カスタム検索

「カスタム検索」を行うことで、特定の期間やイベント、情報のみを対象とした「カスタム再生」を行うことができるようになります。

#### ステップ

- (1) 「再生画面」に移動します。
- (2) カメラを選択します。
- (3) [カスタム検索]をクリックします。

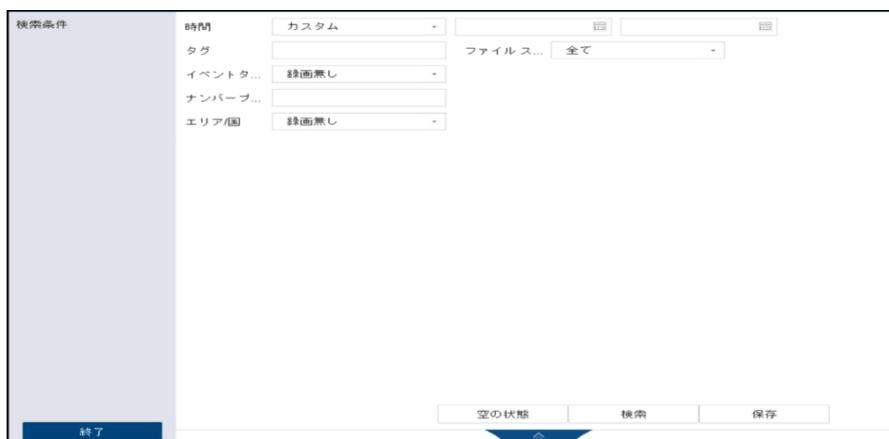


図3-6 カスタム検索

- (4) 「カスタム検索」の条件を設定します。設定項目は「時間」「タグ」「イベントタイプ」「ファイルステータス」「ナンバープレート（特定機種のみ）」「エリア/国」になります。
- (5) [検索]をクリックします。

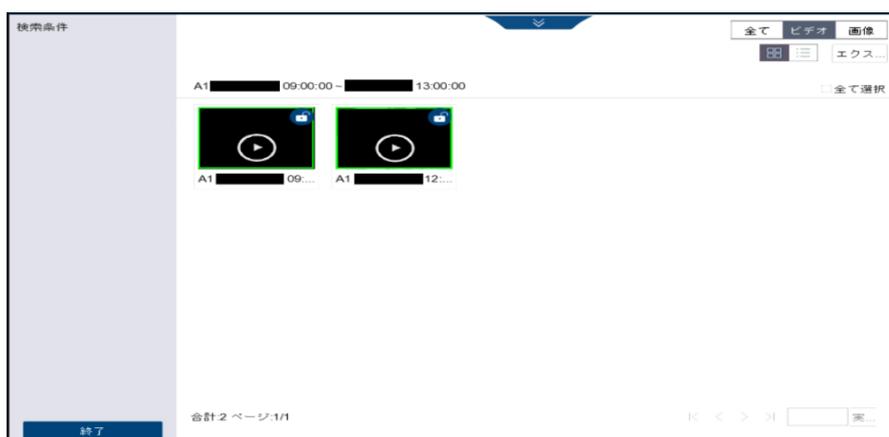


図3-7 カスタム検索結果

- (6) [終了]をクリックします。

※検索結果の画面から選択したビデオファイルのエクスポートや、  
選択したビデオファイルからの再生をすることが可能です。

## 3. 再生

### 3.4. カスタム検索&カスタム再生

#### カスタム再生

カスタム検索（6）実行後、「カスタム再生画面」に遷移します。



図3-8 カスタム再生

- 再生GUI、コントロールバーは「通常再生」「Smart再生」と同様のボタンで構成されており、「カスタム再生」特有のボタンはありません。
- 青色のバーでマークされた期間には「通常再生」のビデオが表示されます。  
赤いバーは、期間中のビデオが「カスタム検索」で指定した条件のビデオであることを示します。
- デフォルトでは再生ストラテジーの「通常のビデオを再生しないでください」が有効のため、「カスタム検索」で指定した条件のビデオのみが再生されます。

## 3. 再生

### 3.5. ビデオクリップのバックアップ

再生中にビデオを切り出すことができます。

ビデオクリップをバックアップ装置(USBフラッシュ)に書き出すことができます。

#### 開始前に

バックアップ装置をビデオレコーダーに接続します。

#### ステップ

- (1) 再生を開始します。詳細は「通常再生」を参照してください。
- (2)  をクリックします。
- (3)  をクリックして開始時刻と終了時刻を設定します。タイムバーのカーソルを調整して、期間を設定することもできます。
- (4) [OK→クリップのエクスポート  ] をクリックします。
- (5) 映像とログを選択し、[OK] をクリックします。
- (6) バックアップデバイスとフォルダを選択します。
- (7) [保存→OK] をクリックしてクリップをバックアップデバイスにエクスポートします。

## 4. ファイル管理

### 4.1. ファイル検索方法

#### ステップ

- (1) 「ホーム」に移動します。
- (2) [ファイル管理]をクリックします。

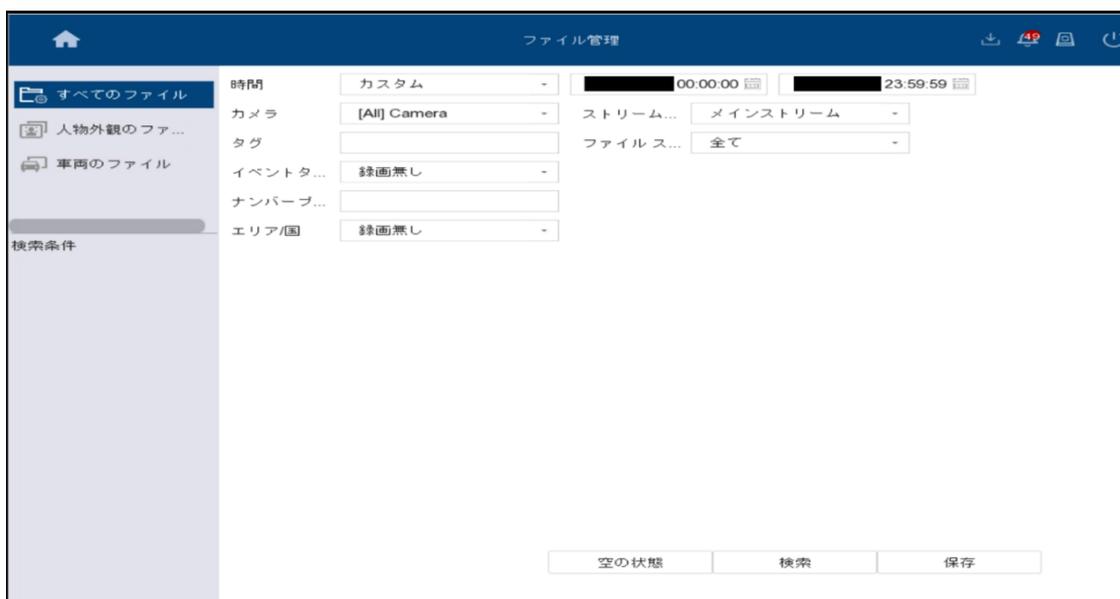


図4-1 ファイル管理(検索画面)

- (3) 検索の種類(すべて、人物外観、車両など)を選択します。
- (4) 検索条件を設定します。
- (5) [検索]をクリックします。
  -  をクリックすると、検索したビデオを再生します。
  -  をクリックすると、検索したビデオがロックされ、ファイルは上書きされません。
- (6) ファイルを選択し、[エクスポート]をクリックします。
- (7) 映像とログを選択し、[OK]をクリックします。
- (8) バックアップデバイスとフォルダを選択します。
- (9) [保存→OK]をクリックしてクリップをバックアップデバイスにエクスポートします。

## 5. カメラ

### 5.1. カメラ管理

#### 5.1.1. ネットワークカメラ

##### 自動検索オンラインネットワークカメラの追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

##### 開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認します。

##### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「カメラ」 → 「IPカメラ」 に移動します。
- (2) [オンラインデバイスリスト] をクリックします。

同じネットワークセグメントのオンラインカメラが一覧に表示されます。



図5-1 オンラインデバイス

- (3) ネットワークカメラを選択し[追加]をクリックして追加します。

##### **i** 注記

選択したカメラが起動していることを確認します。

## 5. カメラ

### 5.1. カメラ管理

#### 5.1.1. ネットワークカメラ

##### ネットワークカメラを手動で追加する

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

##### 開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。
- ネットワークカメラが起動していることを確認します。

##### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「カメラ」 → 「IPカメラ」 に移動します。
- (2)  をクリックします。



番号	ステータス	セキュリティ	IPアドレス
1	アクティブした		

IPカメラアドレス

プロトコル

管理ポート

転送プロトコル

ユーザー名

パスワード

チャンネルのデフォルトパスワ...

図5-2 IPカメラの追加

- (3) ネットワークカメラのパラメータを入力します。

##### チャンネルのデフォルトパスワードを使用する

有効にすると、ビデオレコーダーは設定したチャンネルのデフォルトパスワードでカメラを追加します。

- (4) [追加]をクリックします。

## 5. カメラ

### 5.1. カメラ管理

#### 5.1.1. ネットワークカメラ

##### ネットワークカメラの編集

ネットワークカメラのIPアドレスやプロトコルなどを編集できます。

##### ステップ

- (1) 「設定」→「カメラ」に移動します。
- (2) ネットワークカメラを選択して[編集]  をクリックします。

##### チャンネルポート

接続されているデバイスが複数のチャンネルを持つエンコーディングデバイスの場合、ドロップダウンリストからチャンネルポート番号を選択して、接続するチャンネルを選択できます。

- (3) オプション:[IPの編集]をクリックして、一括してカメラのIPアドレスを編集します。  
システムは、選択したカメラに順番にIPアドレスを割り当てます。
- (4) [OK]をクリックします。

##### ネットワークカメラのアップグレード

ネットワークカメラは、装置を介してリモートでアップグレードすることができます。

##### 開始前に

- 装置にUSBフラッシュドライブが挿入され、ネットワークカメラのアップグレードファームウェアが含まれていることを確認します。
- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。

##### ステップ

- (1) 「ホーム」→「カメラ」→「IPカメラ」に移動します。
- (2) アップグレードしたいIPカメラの  をクリックします。
- (3) [はい]をクリックして確認します。
- (4) ストレージデバイスからカメラのアップグレードファームウェアを選択します。
- (5) アップグレードを開始するには[アップグレード]をクリックします。  
アップグレードが完了すると、カメラは自動的に再起動します。

## 5. カメラ

### 5.1. カメラ管理

#### 5.1.1. ネットワークカメラ

##### カメラパラメータの詳細設定

カメラのIPアドレス、カメラのパスワードなど、高度なカメラパラメータを設定できます。

##### 開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認します。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。

##### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「カメラ」 → 「IPカメラ」 に移動します。
- (2) 詳細設定を行うIPカメラの  をクリックします。
- (3) IPアドレス、パスワードなどのカメラパラメータを設定します。
- (4) [適用] をクリックします。

##### IPカメラ設定ファイルのインポート/エクスポート

追加したネットワークカメラの情報をエクセルファイルに生成し、IPアドレス、ポート、adminのパスワードなどのバックアップ用にローカルデバイスにエクスポートすることができます。また、エクスポートされたファイルは、コンテンツの追加や削除など、コンピュータ上で編集することができ、エクセルファイルを他のデバイスにインポートすることで設定をコピーすることができます。

##### 開始前に

USBフラッシュドライブなどのバックアップ装置をビデオレコーダーに接続します。

##### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「カメラ」 → 「IPカメラ」 に移動します。
- (2) [インポート/エクスポート] をクリックして、接続されたバックアップ・デバイスに設定ファイルをインポート/エクスポートします。
- (3) 「ストレージデバイス」と「フォルダパス」を設定します。
- (4) [インポート] または [エクスポート] をクリックします。

##### 次のステップ

インポート処理が完了したら、ビデオレコーダーを再起動する必要があります。

## 5. カメラ

### 5.1. カメラ管理

#### 5.1.1. ネットワークカメラ

##### 詳細設定

##### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「カメラ」 → 「IPカメラ」 に移動します。
- (2) [詳細設定] をクリックします。
- (3) 必要に応じてパラメータを設定します。

##### H.265 オートスイッチ設定

有効にすると、ネットワークカメラ(H.265ビデオ形式をサポート)の初期アクセス時に、デバイスは自動的にH.265ストリームに切り替わります。

##### アップグレード

ネットワークカメラをアップグレードします。

##### カメラ起動パスワードの設定

ネットワークカメラを起動/追加するときのデフォルトパスワードを変更します。既に接続されているネットワークカメラの場合は、次のポップアップウィンドウでパスワードを変更できます。

## 5. カメラ

### 5.2. カメラ表示

「OSD (オンスクリーンディスプレイ)」「画像設定」「露出設定」「昼夜切り替え設定」などを設定します。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」→「カメラ」→「表示」に移動します。
- (2) カメラを選択します。
- (3) 必要に応じてパラメータを設定します。

#### OSD設定

日時、カメラ名など、カメラのOSD (オンスクリーン表示)の設定を行います。

#### 画像調整

ライブビューや録画エフェクトの明るさ、コントラスト、彩度などの設定を行います。

#### 露光

カメラの露出時間を設定します(1/10000~1秒)。露出値が大きいほど画像が明るくなります。

#### 日中/夜間切替

周囲の照明条件に応じて、昼間、夜間、オートスイッチモードに設定できます。

#### 背景光

カメラのワイドダイナミックレンジ(0~100)を設定します。

周囲の照明と被写体の明るさの差が大きい場合は、WDR値を設定してください。

#### 画像強調

画像コントラスト強調を行うための設定です。

#### カメラパラメータ設定

カメラの機能に関するパラメータ設定を行います。(赤外線強度等)



図5-3 OSD

- (4) プレビューウィンドウでテキストフレームをドラッグして、OSD位置を調整します。
- (5) [適用]をクリックします。

## 5. カメラ

### 5.3. プライバシーマスク

表示または記録できないプライバシー・マスク・エリアを設定することができます。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「カメラ」 → 「プライバシーマスク」に移動します。
- (2) カメラを選択します。
- (3) 有効化にチェックを入れます。



図5-4 プライバシーマスク

- (4) ドラッグして、ウィンドウ上に領域を描画します。領域のフレームは、異なる色でマークされます。

#### **i** 注記

最大4つのプライバシーマスク領域を設定できます。各エリアのサイズを調整することができます。

- (5) 適用をクリックします。

## 5. カメラ

### 5.4. ビデオパラメータ

#### ステップ

- (1) 「ホーム」→「カメラ」→「ビデオパラメータ」→「メイン/サブストリーム」に移動します。
- (2) 「記録パラメータ」を設定します。

#### メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されたデータに影響を与えるプライマリストリームを指し、ビデオの画質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較して、主ストリームは、より高い解像度およびフレームレートを有します。より高い品質のビデオを提供します。

#### サブストリーム

サブストリームは、メインストリームに沿って動作する2番目のコーデックです。直接の記録品質を犠牲にすることなく、発信インターネット帯域幅を削減することができます。サブストリームは、スマートフォンのアプリケーションがライブビデオを見るために独占的に使用することが多いです。インターネットの速度が制限されているユーザーは、帯域を削減して映像を確認することが出来ます。

#### フレームレート

フレームレートとは、1秒間に取り込まれるフレーム数のことです。より高いフレームレートは、ビデオストリーム内に移動がある場合に、全体的に動作が滑らかなビデオを撮影します。

#### 画像解像度

画像解像度とは、デジタル画像がどれだけ詳細に記録できるかを測る尺度であり、解像度が高いほど、高品質なビデオを撮影します。画素数として解像度を指定することができます。縦列(幅)、ピクセル行の数(高さ)、たとえば、1024×768です。

#### ビットレート

ビットレート(Kbit/sまたはMbit/s)は、しばしば速度と呼ばれますが、実際にはビット/時間の単位であって、距離/時間の単位ではない数を定義します。

#### H.264/H.265を有効にする

H.264/H.265モードは、低ビットレートで高画質を保証するのに役立ちます。帯域幅とHDD記憶領域の必要性を効果的に低減することができます。

- (3) [適用]をクリックします。

## 6. ストレージ

### 6.1. スケジュール

#### 6.1.1. 録画スケジュールの設定

設定されたスケジュールに従って、ビデオレコーダーが自動的に録画を開始/停止します。

##### スケジュール録画の設定

##### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「カメラ」 → 「ビデオパラメータ」に移動します。
- (2) カメラの「メインストリーム/サブストリームのスケジュールパラメータ」を設定します。
- (3) 「ホーム」 → 「ストレージ」 → 「スケジュール」 → 「録画」に移動します。
- (4) 「スケジュール有効」にチェックをいれます。

##### イベント記録の設定

通常イベントまたはスマートイベントによってトリガされる録画を設定できます。

##### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「システム」 → 「イベント」に移動します。
- (2) トリガーとなる「イベント」を設定し、イベントを検知するカメラを選択します。  
※イベント設定時にアラームスケジュールの設定および、リンケージアクションの設定をすることが可能です。
- (3) 「ホーム」 → 「カメラ」 → 「ビデオパラメータ」に移動します。
- (4) カメラの「メインストリーム（イベント）」を設定します。
- (5) 「ホーム」 → 「ストレージ」 → 「スケジュール」 → 「録画」に移動します。
- (6) スケジュールを「イベント」として編集します。

## 6. ストレージ

### 6.1. スケジュール

#### 6.1.1. 録画スケジュールの設定

##### スケジュール編集

##### ステップ

(1) 「ホーム」 → 「ストレージ」 → 「スケジュール」 → 「録画」に移動します。



図6-1 記録スケジュール

##### スケジュール録画

設定したスケジュールの間、常時録画を行います。

##### イベント録画

録画は、設定したイベントが対象となりトリガしたアラームによって開始されます。

- (2) カメラ番号でカメラを選びます。
- (3) 「スケジュール有効」にチェックを入れます。
- (4) 「記録スケジュール」を設定します。
  - 1) [編集]をクリックします。
  - 2) 設定する曜日を選択します。
  - 3) 終日録画スケジュールを設定するには、「終日」をチェックし、「スケジュールの種類」を選択します。
  - 4) その他のスケジュールを設定する場合は、「終日」のチェックを外し、「開始/終了時刻」と「スケジュールの種類」を設定します。
  - 5) [OK]をクリックして設定を保存し、メニューに戻ります。

##### 注記

1日につき最大8個まで設定できます。また、重複したスケジュールは設定できません。

- (5) [適用]をクリックします。

## 6. ストレージ

### 6.1. スケジュール

#### 6.1.1. 録画スケジュールの設定

##### 上級設定

高度なパラメータ設定を行います。

- (1) 「ホーム」→「ストレージ」→「スケジュール」→「録画」に移動します。
- (2) カメラ番号でカメラを選びます。
- (3) [上級]をクリックします。



高度なパラメータ	
音声録音:	<input checked="" type="checkbox"/>
事前記録:	5秒
事後記録:	5秒
ストリーム...	デュアル
有効期限(日)	0

図6-2 詳細パラメータ

##### 音声録音

ビデオファイルにオーディオが記録されます。

※音声録音を有効にするには、[5.4ビデオパラメータ]よりストリームタイプを「映像&音声」に変更しておく必要があります。

##### 事前記録

スケジュールされた時刻またはイベントの前に録音するように設定した時刻です。たとえば、10:00にアラームが発生し、録画前の時間を5秒に設定すると、カメラは9:59:55に録画します。

##### 事後記録

イベントの後に録音するように設定した時刻またはスケジュールされた時刻です。たとえば、アラームがトリガされた記録が11:00に終了し、記録後の時間を5秒に設定すると、11:00:05まで記録されます。

##### ストリームタイプ

メインストリームとサブストリームを選択して記録することができます。サブストリームを選択すると、同じストレージ・スペースで長時間録画できます。

##### ビデオ/ピクチャの有効期限

有効期限は、記録されたファイルをHDDに保存する期間です。期限に達すると、ファイルは削除されます。有効期限を0に設定した場合は、ファイルは削除されません。ファイルの実際の保存時間は、HDDの容量によって決まります。

- (4) [OK]をクリックして、詳細設定を保存します。
- (5) [適用]をクリックします。

## 6. ストレージ

### 6.2. ストレージデバイス

#### HDD初期化

初めてHDDを使用する場合は、インストール後に初期化してください。

#### 開始前に

ビデオレコーダーには、少なくとも1つHDDを取り付けてください。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」→「ストレージ」→「ストレージデバイス」に移動します。
- (2) HDDを選びます。
- (3) [初期化]をクリックします。

#### ネットワークディスクの追加

割り当てられたNASまたはIP SANディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワークHDDとして使用することができます。

最大8台のネットワークディスクを追加できます。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」→「ストレージ」→「ストレージデバイス」に移動します。
- (2) [追加]をクリックします。
- (3) 「NetHDD」を選択します。
- (4) タイプを「NAS」または「IPSAN」に設定します。
- (5) 「NetHDD IP」アドレスを入力します。
- (6) [検索]をクリックして、使用可能なディスクを検索します。

カスタム追加	
NetHDD	NetHDD 1 -
タイプ	NAS -
NetHDD IPアドレス	
NetHDD ディレクトリ	<input type="text"/> 検索
OK    キャンセル	

図6-3 NetHDDの追加

## 6. ストレージ

### 6.2. ストレージデバイス

- (7) リストからNASディスクを選択するか、  
手動でNetHDDディレクトリにディレクトリを入力します。
- (8) [OK]をクリックします。

**i** 注記

1つのネットワーク・ディスクに対して最大8つの記憶容量が許可されています。

**結果**

追加したネットワークディスクがストレージデバイスリストに表示されます。

## 6. ストレージ

### 6.3. ストレージモード

#### HDDグループの設定

複数のHDDをまとめて管理できます。HDDの設定により、指定したチャンネルのビデオを特定のHDDグループに記録できます。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「ストレージ」 → 「ストレージモード」 に移動します。
- (2) 「モード」 を「グループ」 に選択します。
- (3) 「グループ番号」 を選択します。
- (4) HDDグループに記録するIPカメラを選択します。



図6-4 グループ

- (5) [適用]をクリックします。
- (6) ビデオレコーダーを再起動して、新しいストレージモード設定を有効にします。
- (7) 再起動後「ホーム」 → 「ストレージ」 → 「ストレージモード」 に移動します。
- (8) 目的のHDDをクリックしてグループを設定します。
- (9) 現在のHDDのグループ番号を選択します。
- (10) [OK]をクリックします。

#### **i** 注記

HDDグループ番号を変更した場合は、HDD用カメラのグループを変更してください。

## 6. ストレージ

### 6.3. ストレージモード

#### HDD割り当て量の設定

各カメラには、ビデオを保存するために割り当てられた保存量を設定できます。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「ストレージ」 → 「ストレージモード」に移動します。
- (2) 「モード」を「割り当て量」に設定します。
- (3) カメラで割り当てを設定するカメラを選択します。
- (4) 「記録容量」に「保存容量」を入力します。

モード	<input checked="" type="radio"/> 割り当て <input type="radio"/> グループ
カメラ	[A1] Camera 01
録画使用容量	3072.00MB
イメージ使用容量	1024.00MB
HDD容量(GB)	1863
最大録画容量(GB)	0
最大イメージ容量(GB)	0
⚠️ 空き割り当て容量 1863GB	
<input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="コピー先"/>	

図6-5 割り当て量

#### **i** 注記

割り当て容量を0に設定すると、すべてのカメラがHDDの合計容量を動画・画像に使用します。

- (5) [適用]をクリックします。
- (6) ビデオレコーダーを再起動して、新しい設定を有効にします。

## 6. ストレージ

### 6.4. 詳細設定

#### ステップ

(1) 「ホーム」→「ストレージ」→「詳細設定」に移動します。

上書き

HDDスタンバイにする

1080Pライトモード

すべてのアナログカメラのH.2...

クォータモードでは、チャンネル内の複数のビデオが同一のクォータを共有することはできません。有効なクォータを持つチャンネルを割り当てるか、グループモードに切り替えてください。

図6-6 詳細設定

(2) 必要に応じてパラメータを設定します。

#### 上書き

- 無効:HDDがいっぱいになると、ビデオレコーダーの書き込みが停止します。
- 有効: ハードドライブがいっぱいときは、最も古いファイルを削除して、ビデオレコーダーは新しいファイルを書き込み続けます。

#### HDDスタンバイにする

- 無効:常にHDDをアクティブ状態にします。
- 有効: 長期間動作しないHDDはスタンバイ状態にします。

#### 1080Pライトモード

- 無効:1080Pライトモードが無効の状態です。
- 有効: 1080Pライトモードを有効にします。有効化状態では、映像の圧縮やフレームレートの調整などにより、ネットワーク負荷や記録容量を抑えつつ、1080Pの高画質映像を効率的に扱うことが可能になります。

#### すべてのアナログカメラのH.264+/H.265+

- [無効化]:現在接続されているすべてのアナログカメラのH.264+/H.265+を無効化します。
- [有効化]:現在接続されているすべてのアナログカメラのH.264+/H.266+を有効化します。  
※有効化の場合、即座にレコーダーの再起動が行われます。

(3) [適用]をクリックします。

(4) ビデオレコーダーを再起動して、新しい設定を有効にします。

## 6. ストレージ

### 6.5. クラウドストレージ

#### ステップ

(1) 「ホーム」→「ストレージ」→「クラウドストレージ」に移動します。



クラウド有効化

クラウド種別 OneDrive

認証コード

ステータス オフライン

カメラ [A1] Camera 01

アップロードタイプ 録画

イベントアップロー...

\*注意: サブストリーム録画ファイルだけがクラウドストレージにアップロードできます。イベントトリガー録画スケジュールを設定し、対応するイベント種別を有効化してください。

コピー先 適用

図6-7 クラウドストレージ

(2) 「クラウド有効化」にチェックを入れます。

(3) クラウド種別を選択します。

※OneDriveおよびDropBoxから選択ができます。

(4) QRコードを読み取り、選択したクラウド種別の認証コードを取得します。

(5) クラウドストレージを有効にするカメラを選択します。

※イベントアップロード有効化について

設定を有効にした場合、設定したイベント録画をクラウドストレージにアップロードします。

(6) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.1. 一般的なコントロール

#### 基本設定

「言語」「システム時刻」「出力解像度」「マウスポインタの速度」などを設定できます。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」→「システム」→「一般的なコントロール」の順に移動します。
- (2) 基本設定のパラメータを設定します。

言語	日本語	VGA/HDMI解像度	1920*1080/60HZ
タイムゾーン	(GMT+09:00) 東	マウス速度	遅い <input type="range"/> 速い
日付の表示形式	日-月-年	CVBS出力輝度	<input type="range"/>
システムの日付	00-00-2025	出力標準	PAL
システム時間	00:00:00	夏時間を有効にする	<input type="checkbox"/>
デバイス名	Embedded Net L	夏時間モード	<input type="radio"/> オート <input checked="" type="radio"/> マニュアル
デバイスNo.	255	開始時間	4月 第1: 日 2 :00
自動ログアウト	5分	終了時間	10月 最終: 日 2 :00
メニュー出力モード	自動	サマータイム調整値	60分
ウィザード有効	<input type="checkbox"/>	エンハンスIPモード	<input type="checkbox"/>
オペレーションパスワード	<input type="checkbox"/>		

図7-1 一般的なコントロール

#### 言語

デフォルトの言語は日本語です。

#### VGA/HDMI解像度

出力解像度は、VGA/HDMIディスプレイの解像度と同じにする必要があります。

#### タイムゾーン

デフォルトの設定は東京です。

#### マウスポインタ速度

マウスポインタの速度を設定します。4つのレベルが設定可能です。

#### 日付の表示形式

デフォルトの設定は日-月-年です。

#### CVBS出力輝度

CVBS出力輝度を10段階のレベルで設定します。

#### システムの日付

ビデオレコーダーの年月日を設定します。

## 7. システム

### 7.1. 一般的なコントロール

#### 出力標準

標準の出力タイプを設定します。

#### システム時間

DVRの時刻を設定します。

#### 夏時間を有効にする

夏時間を設定可能にします。

#### 夏時間モード

夏時間の期間を設定方法を選択します。オートでは規定値、マニュアルでは手動になります。

#### 開始時間

夏時間の開始時間を設定します。

#### 終了時間

夏時間の終了時間を設定します。

#### サマータイム調整値

夏時間の期間の調整時間を設定します。

#### デバイス名

ビデオレコーダーの名前を編集します。

#### デバイスNo.

ビデオレコーダーのシリアル番号を編集します。1~255の間で設定可能です。

#### 自動ログアウト

自動でログアウトする時間を設定します。

#### メニュー出力モード

出力を選択してメニューを表示します。

#### ウィザード有効

デバイスの起動後、ウィザードがポップアップ表示されます。

#### エンハンスIPモード

IPカメラの使用可能数を1台増設します。この画面でのみ設定可能です。

#### オペレーションパスワード

デバイスの起動時にオペレーションパスワードが要求されるようになります。

(3) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.2. ユーザー設定

#### ユーザーの追加

デフォルト・管理者ユーザ名はadminです。

管理者は、「ユーザーを追加」「削除」および「編集」する権限を持ちます。

ゲストユーザーには「ライブビュー」「再生」および「ログ検索」の権限しかありません。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」→「システム」→「ユーザー設定」の順に移動します。
- (2) [追加]をクリックして、管理者パスワードを確認します。

図7-2 ユーザの追加

- (3) ユーザー名を入力します。
- (4) 「パスワード」と「確認」に同じパスワードを入力します。

#### ⚠注意

製品の安全性を高めるために、お客様が選択する強度の高いパスワードを作成することを強くお勧めします  
(大文字、小文字、数字、特殊文字の3つ以上を含む、最低8文字を使用してください)。

- (5) [OK]をクリックします。

-  /  をクリックして、ユーザーを編集/削除します。

## 7. システム

### 7.2. ユーザー設定

#### パスワードリセットEメールの設定

ログインパターンとパスワードを忘れると、デバイスはパスワードリセットのために検証コードを含む電子メールを電子メールに送信します。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「システム」 → 「ユーザー」 の順に移動します。
- (2) 「admin」 を選択し、[変更]  をクリックします。
- (3) 権限確認の管理者パスワードを入力します。
- (4) 「保存されたEメール」 の[変更]をクリックし、メールアドレスを入力します。
- (5) [OK]をクリックします。

#### ロック解除パターンの編集

Adminユーザーは、ロック解除パターンを使用してログインできます。

ロック解除パターンを変更したり、ロック解除パターンを無効にすることができます。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「システム」 → 「ユーザー」 に移動します。
- (2) 「admin」 を選択し、[変更]  をクリックします。
- (3) 権限確認の管理者パスワードを入力します。
- (4) 「パターン解除を有効化」 のチェックで機能のオン/オフを行います。
- (5) 有効時のロック解除パターンを設定する場合は「解除パターンを描く」  をクリックします。

ロック解除パターンの設定方法は以下になります。

- 1) マウスで画面上の9ドットのパターンを描きます。パターンが作成されたらマウスを離します
- 2) 設定したパターンを確認するために、再度同じパターンを描きます。

#### 注記

- 各ドットを重複してパターンを描くことはできません。1 ドット 1 回のみ通過するパターンを描いてください。
- パターンは少なくとも4ドット以上通過して描く必要があります。

- (6) [OK]をクリックします。

## 7. システム

### 7.2. ユーザー設定

#### パスワードの編集

デバイスパスワードを持っている場合は、新しいパスワードに変更できます。  
管理ユーザーは、他のユーザーのパスワードを変更できます。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」 → 「システム」 → 「ユーザー設定」に移動します。
- (2) パスワードを変更するユーザーを選択し、[変更]  をクリックします。
- (3) 権限確認の管理者パスワードを入力します。
- (4) 「パスワード」の[変更]をクリックします。
- (5) 「パスワード」と「確認」に同じパスワードを入力します。（新しいパスワード）
- (6) [OK]をクリックします。

#### 注記

管理者パスワードを変更した場合、前のロック解除パターンはクリアされます。

#### パスワードリセット

ログインパターンとパスワードを忘れたときにパスワードをリセットすることができます。

#### ステップ

- (1) パスワード・ログイン・インターフェースの[パスワードを忘れましたか?]をクリックします。
- (2) 「保存されたメールによる認証」にチェックが入っていることを確認し、[OK]をクリックします。
- (3) 設定されたメールアドレスに届いたQRコードから、パスワードをリセットします。

## 7. システム

### 7.3. ネットワーク設定

#### 7.3.1. TCP/IP

##### TCP/IPの設定

ネットワーク経由でビデオレコーダを操作する前に、TCP/IPを正しく設定する必要があります。

##### ステップ

- (1) 「システム」 → 「ネットワーク設定」 → 「TCP/IP」 → [TCP/IP]タブに移動します。
- (2) ネットワークパラメータを設定します。

##### NIC選択

NICを選択します。

##### NICタイプ

NICタイプを選択します。

##### DHCP

DHCPサーバが使用可能な場合は「DHCP有効」チェックボックスをオンにして、そのサーバからIPアドレスやその他のネットワーク設定を自動的に取得できます。

##### IPv4アドレス

レコーダーのIPv4アドレスを設定します。

##### IPv4 Subnetマスク

レコーダーのIPv4アドレスに対するサブネットマスクを設定します。

##### IPv4デフォルトゲートウェイ

レコーダーの使用するデフォルトゲートウェイを設定します。

##### DNSの自動取得

DHCPがチェックされている場合、優先DNSサーバと代替DNSサーバを自動取得できます。

##### 優先DNSサーバ

デフォルトで使用するDNSサーバを設定します。

##### 代替DNSサーバ

優先DNSサーバにアクセスできなかった場合に使用するDNSサーバを設定します。

##### MTU

一度の通信で送信できるユニットの最大バイト量を設定します。デフォルトは1500です。

##### デフォルトルート

デフォルトルートを選択します。

- (3) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.3. ネットワーク設定

#### 7.3.1. TCP/IP

##### DDNSの設定

動的ドメインネームサーバ(DDNS)は、  
動的ユーザーIPアドレスを固定ドメインネームサーバにマッピングします。

##### 開始前に

「GJ-DDNS」等をISPに登録します。

##### ステップ

(1) 「システム」 → 「ネットワーク設定」 → 「TCP/IP」 → [DDNS]タブに移動します。

TCP/IP	DDNS	PPPOE	NTP	NAT	Wi-Fi
	有効化			<input checked="" type="checkbox"/>	
	DDNSタイプ			DynDNS	
	サーバアドレス				
	デバイスドメインネーム				
	ユーザー名				
	パスワード				
	間隔 (分)				
	ステータス			DDNS使用禁止	

適用

図7-3 DDNS

- (2) 有効化にチェックを入れます。
- (3) DDNSタイプを選択します。
- (4) サービスアドレスやドメイン名などのパラメータを入力します。
- (5) [適用]をクリックします。
- (6) ステータスにDDNSステータスが表示されます。

## 7. システム

### 7.3. ネットワーク設定

#### 7.3.1. TCP/IP

##### PPPOEの設定

ISPへの接続時に、ユーザーIDとパスワードを使って認証を行い、通信を行うための設定です。

- (1) 「システム」→「ネットワーク設定」→「TCP/IP」→[PPPOE]タブに移動します。

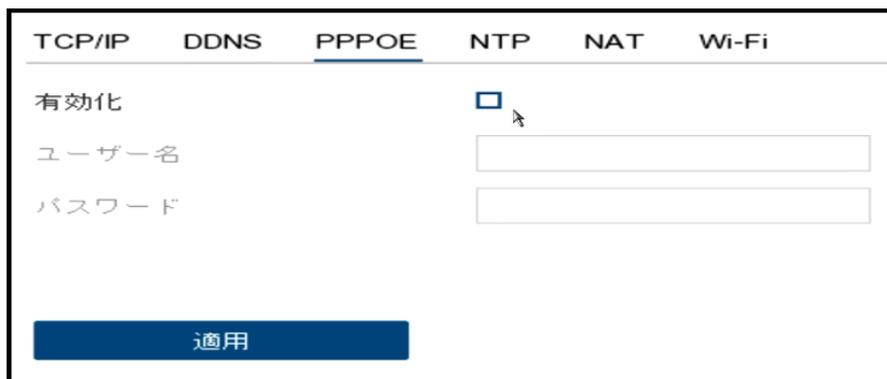


図7-4 DDNS

- (2) 有効化にチェックを入れます。
- (3) ユーザー名とパスワードを入力します。
- (4) [適用]をクリックします。

##### NTPの設定

システム時刻が正確であることを保証するために、ネットワーク時刻プロトコル(NTP)サーバに接続できます。

##### ステップ

- (1) 「システム」→「ネットワーク設定」→「TCP/IP」→[NTP]タブに移動します。
- (2) 有効化にチェックを入れます。
- (3) パラメータを入力します。

##### 間隔

NTPサーバとの時間同期間隔です。

##### NTPサーバ

NTPサーバのIPアドレスです。

##### NTPポート

NTP用のポート設定です。デフォルト値は123です。

- (4) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.3. ネットワーク設定

#### 7.3.1. TCP/IP

##### NATの設定

クロスセグメント・ネットワークを介したりリモート・アクセスを実現するためのポート・マッピングには、UPnP™と手動マッピングの2つの方法があります。

##### 開始前に

UPnP™が必要な場合は、ルータのUPnP™機能を有効にします。

デバイスネットワーク動作モードがマルチアドレスの場合、デフォルトデバイスルートは、ルータのLAN IPアドレスと同じネットワークセグメント上にあることを推奨します。

##### ステップ

- (1) 「システム」→「ネットワーク設定」→「TCP/IP」→[NAT]タブに移動します。



図7-5 NAT

- (2) 「有効化」にチェックを入れます。
- (3) 「手動」または「自動」としてマップされたタイプを選択します。

##### 自動

ポートマッピング項目は読み取り専用で、外部ポートはルータによって自動的に設定されます。  
[更新]をクリックして、ポートマッピングの最新のステータスを取得できます。

##### 手動

外部ポートの種類を選択します。[編集] をクリックして編集します。

デフォルトの外部ポートNo.を使用するか、実際の要件に従って変更することができます。

外部ポートは、ルータのポートマッピングのポート番号を示します。

各ポートの値は1～65535であり、値は互いに異なる必要があります。

- (4) ルータの仮想サーバ(内部ソースポート、外部ソースポートなど)を設定します。  
仮想サーバのパラメータは、デバイスポートに対応している必要があります。
- (5) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.3. ネットワーク設定

#### 7.3.2. 詳細設定

##### Eメール

イベント通知を受信するメールアカウントを設定します。

##### 開始前に

- SMTPサービスが電子メールで利用可能であることを確認します。
- ネットワークパラメータを設定します。詳細は「7.3.1TCP/IP」を参照してください。

##### ステップ

- (1) 「システム」→「ネットワーク設定」→「詳細設定」→[Eメール]タブに移動します。
- (2) 電子メールパラメータの設定

Eメール	プラットフォームへのアクセス	詳細設定
サーバ認証有効		<input type="checkbox"/>
ユーザー名		<input type="text"/>
パスワード		<input type="text"/>
SMTPサーバ		<input type="text"/>
SMTPポート		<input type="text" value="25"/>
SSL/TLS有効		<input type="checkbox"/>
差出人		<input type="text"/>
差出人アドレス		<input type="text"/>
宛先の選択		<input type="text" value="宛先 1"/>
宛先		<input type="text"/>
宛先アドレス		<input type="text"/>
画像添付有効		<input type="checkbox"/>
間隔		<input type="text" value="2秒"/>
<input type="button" value="テスト"/>		<input type="button" value="適用"/>

図7-6 電子メール

## 7. システム

### 7.3. ネットワーク設定

#### 7.3.2. 詳細設定

##### サーバ認証

サーバ認証機能を使用可能にするには、チェックを入れてください。

##### ユーザー名

SMTPサーバ認証のための電子メール送信者のユーザーアカウント名です。

##### パスワード

SMTPサーバ認証のための電子メール送信者のパスワードです。

##### SSL/TLS

1.1 SMTP サーバで必要とされる場合は、SSL/TLS を有効にします。

##### 添付画像

1.2 イベントがトリガされると、画像が電子メール添付として送信されます。

##### 差出人

送信者名です。

##### 差出人アドレス

送信者の電子メールアドレスです。

##### 宛先選択

宛先を選択します。受信機は3台まで設定可能です。

##### 宛先

受信者名です。

##### 宛先アドレス

受信者のメールアドレス。

##### 注記

- ネットワークカメラの場合、イベント画像は直接メール添付として送信されます。
- ネットワークカメラ1台で送信できるのは1枚のみです。

- (3) 「テスト」をクリックするとテストメールが送信されます
- (4) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.3. ネットワーク設定

#### 7.3.3. 詳細設定

##### 詳細設定

目的に応じて関連する機能を有効にするために、異なるポートタイプを設定します。

##### ステップ

- (1) 「システム」 → 「ネットワーク設定」 → 「詳細設定」 → [詳細設定]タブに移動します。
- (2) 各パラメータを設定します。

Eメール	プラットフォームへのアクセス	詳細設定
アラームホストIP		<input type="text"/>
アラームホストポート		<input type="text" value="0"/>
サーバポート		<input type="text" value="8000"/>
HTTPポート		<input type="text" value="80"/>
マルチキャストIP		<input type="text"/>
RTSPポート		<input type="text" value="554"/>
出力帯域幅の制限値		<input type="checkbox"/>
出力帯域幅 (Mbps)		<input type="text" value="2"/>

図7-9 ポートの設定

##### アラームホストIP/ポート

アラームが発生すると、アラームイベントまたは例外メッセージがアラームホストに送信されます。リモートアラームホストは、クライアント管理システム(CMS)ソフトウェアがインストールされている必要があります。

アラームホストIPとは、CMSソフトウェア(例えば、iVMS-4200)がインストールされているリモートPCのIPアドレスを指し、アラームホストポート(デフォルトでは7200)は、ソフトウェアに設定されているアラーム監視ポートと同じでなければなりません。

## 7. システム

### 7.3. ネットワーク設定

#### 7.3.2. 詳細設定

##### サーバポート

リモートクライアントソフトウェアアクセスの場合。範囲は2000～65535です。  
デフォルト値は8000です。

##### HTTPポート

リモートWebブラウザアクセスの場合、デフォルト値は80です。

##### マルチキャストIP

マルチキャストは、ネットワーク経由で許可されている最大数を超えるカメラのライブビューを有効にするように設定できます。マルチキャストIPアドレスは、224.0.0.0～239.255.255.255の範囲のクラスD IPをカバーしていますが、239.252.0.0～239.255.255.255の範囲のIPアドレスを使用することを推奨します。CMSソフトウェアにデバイスを追加する時、マルチキャストアドレスはデバイスと同じでなければなりません。

##### RTSPポート

RTSP (Real Time Streaming Protocol:リアルタイムストリーミングプロトコル)は、ストリーミングメディアサーバを制御するため設計されたネットワーク制御プロトコルです。ポートはデフォルトで554です。

##### 出力帯域幅の制限値

出力帯域幅の制限を有効にするためには、チェックボックスをオンにします。

##### 出力帯域幅

出力帯域幅の制限値を有効にした後、出力帯域幅を入力します。

##### 注記

- リモートライブビューおよび再生には、出力帯域幅制限が使用されます。
- デフォルトの出力帯域幅は最大です。

(3) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.4. イベント

#### 7.4.1. 通常イベント

##### 動体検知録画

動体検知設定により、ビデオレコーダは監視領域内の動きのあるオブジェクトを検出できます。

また動体検知をした際に、アラームをトリガします。

##### ステップ

(1) 「システム」→「イベント」→「通常イベント」→[動体検知録画]タブに移動します。



図 7-10 アラームスケジュール設定

- (2) カメラを選択します。
- (3) 有効化にチェックを入れます。
- (4) [エリア]をクリックし、設定を行います。
  - 1) [エリア描画]をクリックします。
  - 2) 画面内でクリックをすることでそこが開始点となり、マウスで検知エリアを描画出来ます。  
4点目で右クリックすると検知エリアが作成されます。  
※最大10点の点で結ぶことが出来ます。

##### **i** 注記

描画する線がクロスしてしまうと「**交差線は許されません!**」のポップアップ表示の後、描画が中止されます。

※[クリア]をクリックすると**すべての描画エリアが削除**されます。

- (5) 感度を設定します。感度の数値が大きいほど微量な動きを検知します。
- (6) ターゲット検出を設定します。人体と車両**のみ**（または両方）を検出することが可能です。  
※人体と車両以外を検知したい場合は両方のチェックを外してください。
- (7) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.4. イベント

#### 7.4.1. 通常イベント

##### 次のステップ[アラームスケジュールの設定]

(1) [アラームスケジュール]をクリックし、設定を行います。

	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	
月	録画	1												
火	録画	2												
水	録画	3												
木	録画	4												
金	録画	5												
土	録画	6												
日	録画	7												

図 7-11 アラームスケジュール設定

(2) [編集]をクリックすると、スケジュール設定画面がポップアップします。

1週間のうちの1日を選択し、時間区分を設定します。1日8回まで設定できます。

##### **i** 注記

期間は、重複して設定しないでください。

※[スケジュール録画]をクリックすると、グラフをクリックで描画できます。(1時間毎)

※[録画無し]をクリックすると、グラフをクリックで消去できます。(1時間毎)

(3) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.4. イベント

#### 7.4.1. 通常イベント

##### 次のステップ[リンケージアクションの設定1]

(1) [リンケージアクション]をクリックし、設定を行います。

The screenshot shows the 'Linkage Action' configuration interface for '[A1] Camera 01'. The interface is divided into several sections:

- カメラ:** [A1] Camera 01
- タブ:** エリア設定, アラームスケジュール, リンケージアクション (selected)
- 通常リンケージ:**
  - ポップアップアラ...
  - 音声警告
  - 監視センターに送信
  - メール送信
  - キャプチャ画像を...
- トリガーアラーム...**
  - ローカル->1
- トリガーチャン...**
  - A1
  - A3
  - A4
  - D1
- PTZリンケージ:**
  - PTZリン... [A1] Carr
  - プリセッ... 1
  - パトロー... 1
  - パターン... 1

A blue button labeled '適用' (Apply) is located at the bottom left of the configuration area.

図 7-12 アラームスケジュール設定

(2) 「通常リンケージ」を設定します。

- 1) ポップアップアラート…アラームがトリガした場合、トリガーチャンネルで設定されたチャンネルのビューを全画面表示します。
- 2) 音声警告…アラームがトリガした場合、レコーダーから警告音を発報します。
- 3) 監視センターに送信…アラームがトリガした場合、Guarding Vision等の監視ソフトに通知を行います。
- 4) メール送信…アラームがトリガした場合、設定しているメールに通知メールを送信します。  
※事前に[7.3.2. Eメール]の設定が必要です。
- 5) キャプチャ画像をクラウドにアップロード…アラームがトリガした場合、キャプチャ画像をクラウドフォルダにアップロードします。  
※事前に[6.5. クラウドストレージ]の設定が必要です。

## 7. システム

### 7.4. イベント

#### 7.4.1. 通常イベント

##### [リンケージアクションの設定2]

(3) 「トリガーアラーム」を設定します。

1) ローカル->1…アラームがトリガした場合、出力端子1から信号を發します。

※ をクリックすることで[アラーム出力]の設定を呼び出すことができます。

(4) 「トリガーチャンネル」を設定します。

どのチャンネルでリンケージアクションを行うかを設定できます。

画像のようにA1カメラの設定でトリガーチャンネルをA1にした場合は、

A1カメラで動体検知した場合、A1チャンネルでリンケージアクションを行います。

A3やA4をトリガーチャンネルに設定して、A1カメラでイベント発生した場合に

リンケージアクションはA3、A4チャンネルで行うといった設定も可能です。

(5) 「PTZリンケージ」を設定します。

※PTZリンケージはイベントによっては設定できません。また、機能を利用するためにはPTZ機能を持つカメラを接続する必要があります。

1) PTZリンケージを行うカメラを選択します。

2) 実行する動作を「プリセット」「パトロール」「パターン」から選択します。

※事前に[2.2. PTZ制御]関連の設定が必要です。

(6) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.4. イベント

#### 7.4.1. 通常イベント

##### タンパリングアラーム/或者カメラ妨害アラーム

カメラへの妨害行為やレンズが覆い隠されたりした場合に警報を発し、所定の警報処理を実行します。

#### ステップ

(1) 「システム」→「イベント」→「通常イベント」

→[タンパリングアラーム/或者カメラ妨害アラーム]タブに移動します。



図7-13 ビデオ改ざん

(2) カメラを選択します

(3) [有効化]にチェックを入れて有効にします。

(4) 感度を調整します。値が高いほど、ビデオ改ざんを検知しやすくなります

(5) アラームスケジュールを設定します。

詳細は「アラームスケジュールの設定」を参照してください。

(6) リンケージアクションを設定します。

詳細は「リンケージアクションの設定」を参照してください。

(7) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.4. イベント

#### 7.4.1. 通常イベント

##### ビデオロス

カメラのビデオ損失を検出し、アラーム応答動作を行います。

##### ステップ

- (1) 「システム」→「イベント」→「通常イベント」→[ビデオロス]タブに移動します。
- (2) カメラを選択します
- (3) [有効化]にチェックを入れて有効にします。
- (4) アラームスケジュールを設定します。  
詳細は「アラームスケジュールの設定」を参照してください。
- (5) リンケージアクションを設定します。  
詳細は「リンケージアクションの設定」を参照してください。
- (6) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.4. イベント

#### 7.4.1. 通常イベント

##### アラーム入力

外部センサアラームの連動動作を設定します。

##### ステップ

(1) 「システム」→「イベント」→「通常イベント」→[アラーム入力]タブに移動します。



アラーム入力 No.	アラーム名	アラームタ...	有効	編集
ローカル<-1		常時開	なし	✎
ローカル<-2		常時開	なし	✎
ローカル<-3		常時開	なし	✎
ローカル<-4		常時開	なし	✎

図7-14 アラーム入力

##### i 注記

ローカルアラーム入力:ローカルアラーム入力は、ビデオレコーダの端子台に接続された外部機器によってトリガされます。

(2) 目的のアラーム入力をクリックします。



編集

アラーム... ローカル<-1      タイプ 常時開

アラーム名

処理方式  不常用     入力     ワンキー解除

図7-15 アラーム入力の編集

(3) アラーム名のカスタマイズを行います。

(4) アラームの種類をN.O (ノーマルオープン)またはN.C (ノーマルクローズ)に設定します。

(5) 「設定」を「入力」に調整して有効にしてください。

##### i 注記

- 「設定」を「不常用」に調整すると、アラーム入力は無効になります。
- 「設定」を「ワンキー解除」に設定すると、選択したアラーム入力のリンク方法は無効になります。

(6) アラームスケジュールを設定します。

詳細は「アラームスケジュールの設定」を参照してください。

(7) リンク動作を設定します。詳細は「リンケージアクションの設定」を参照してください。

(8) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.4. イベント

#### 7.4.1. 通常イベント

##### アラーム出力

アラーム発生時にアラーム出力をトリガします。

##### ステップ

- (1) 「設定」→「イベント」→「通常イベント」→「アラーム出力」に移動します。



図7-16 アラーム出力

- (2) 目的のアラーム出力の[編集]をクリックします。



図7-17 アラーム出力の編集

- (3) アラームスケジュールを設定します。

詳細は「アラームスケジュールの設定」を参照してください。

- (4) [適用]をクリックします。

##### 異常検知設定

異常検知設定は、ライブビューウィンドウでイベントヒントを取得し、アラーム出力とリンク動作をトリガするように設定できます。

## 7. システム

### 7.4. イベント

#### 7.4.1. 通常イベント

##### ステップ

- (1) 「システム」→「イベント」→「通常イベント」→「異常検知設定」に移動します。
- (2) イベントヒントを設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターにヒントが表示されます。
  - 1) イベント・ヒントを有効にします。
  - 2) ヒントとするイベントを選択します。
-  をクリックすると、イベントを選択するためのイベント・ヒント設定します。
- (3) [異常検知タイプ]を選択して、リンク動作を設定します。



<input type="checkbox"/> 通常リンケージ	<input type="checkbox"/> アラーム出力
<input type="checkbox"/> 音声警告	<input type="checkbox"/> ローカル->1
<input type="checkbox"/> 監視センターに送信	
<input type="checkbox"/> メール送信	

図7-18 例外

- (4) アラームスケジュールを設定します。  
詳細は「アラームスケジュールの設定」を参照してください。
- (5) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.4. イベント

#### 7.4.2. スマートイベント

##### 越境検知

越境検知は、セットされた仮想線を横断する人、車両、物体を検知します。  
検出方向は「左から右」または「右から左」に両方向に設定できます。

##### ステップ

- (1) 「システム」→「イベント」→「スマートイベント」→「線を越える」に移動します。
- (2) カメラを選択します。
- (3) [越境検知を有効にする]にチェックします。
- (4) 検出ルールと検出エリアを設定します。
  - 1) [エリア描画]をクリック後、画面を2回クリックして越境検知用のラインを描画します。
  - 2) 方向を「A<->B」「A<-B」「A->B」のいずれかに設定します。  
構成された線を両方向に交差するオブジェクトを検知したときに、アラームがトリガします。

##### A⇔B

設定されたラインをA側からB側、B側からA側の双方向で横切るオブジェクトを検出できます。

##### A→B

設定されたラインをA側からB側に横切るオブジェクトのみ検出できます。

##### B→A

設定されたラインをB側からA側に横切るオブジェクトのみ検出できます。

- 3) オプション:人体または車両によってトリガされないアラームを破棄するには、人体または車両として目標検出を設定します。
- (5) アラームスケジュールを設定します。  
詳細は「アラームスケジュールの設定」を参照してください。
- (6) リンク動作を設定します。  
詳細は「リンケージアクションの設定」を参照してください。
- (7) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.4. イベント

#### 7.4.2. スマートイベント

##### 侵入検知

侵入検知機能は、あらかじめ定義された仮想領域に入った人や車両、物体を検知する機能です。

##### ステップ

- (1) 「設定」→「イベント」→「スマートイベント」→「侵入」に移動します。
- (2) カメラを選択します。
- (3) [侵入検知を有効にする]にチェックします。
- (4) 検出ルールと検出エリアを設定します。
  - 1) [エリア描画]をクリック後、画面を4回クリックして侵入検知用のエリアを描画します。  
クリックで4つの頂点が決まり、エリアは必ず三角形か四角形になります。
  - 2) 時間しきい値と感度を調整します。

##### 感度

アラームをトリガするオブジェクトのサイズ。値が高いほど、より容易に検出アラームが発生します。範囲は[1-100]です。

##### 値

範囲 [0s-2s] は、領域内でオブジェクトがローテイングする時間のしきい値です。  
設定した検出領域のオブジェクトの継続時間が設定時間より長いとアラームが発生します。

- 3) オプション:人体または車両によってトリガされないアラームを破棄するには、人体または車両として目標検出を設定します。
- (5) アラームスケジュールを設定します。  
詳細は「アラームスケジュールの設定」を参照してください。
- (6) リンク動作を設定します。  
詳細は「リンケージアクションの設定」を参照してください。
- (7) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.4. イベント

#### 7.4.2. スマートイベント

##### 音声異常検知

音声異常検知はカメラ内蔵マイクを利用し突発的な音声の発生や、音声の停止を外部から検出し、その際に一定の動作を行う機能です。

##### ステップ

- (1) 「システム」→「イベント」→「スマートイベント」→「音声異常」に移動します。
- (2) カメラを選択します。
- (3) 検出ルールを設定します。
  - 1) 「オーディオ入力の例外」「音の強く急に上がる検出」にチェックを入れます。
  - 2) 感度と音響インテンシティ値を1-100の間で設定します。
  - 3) 「音の強く急に下がる検出」
  - 4) 感度を設定します。
- (4) アラームスケジュールを設定します。

詳細は「アラームスケジュールの設定」を参照してください。
- (5) リンク動作を設定します。

詳細は「リンケージアクションの設定」を参照してください。
- (6) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.5. ライブ表示

#### 7.5.1. 基本設定

「出カインターフェイス」「ミュート」「音声出力」  
「イベント出カインターフェイス」などを設定できます。

#### ステップ

(1) 「ホーム」→「システム」→「ライブ表示」→「基本設定」の順に移動します。

図7-19 ライブビュー基本設定

(2) ライブビューのパラメータを設定します。

表7-1 パラメータの説明

ビデオ出カインターフェイス	イベント出力
ライブビューの出カインターフェイスを設定します。	イベントの出カインターフェイスを設定します。
ライブ表示方式	フルスクリーン表示時間
ライブビューの画面分割を設定します。	フルスクリーン表示の時間を設定します。
アラーム出力時間	
アラーム出力時間を設定します。	
音声出力有効	
音声出力の有効/無効を設定します。	
ボリューム	
音声出力を5段階で設定します。	

(3) [適用]をクリックします。

## 7. システム

### 7.5. ライブ表示

#### 7.5.2. 表示

ライブビューの分割画面に対して、どの画面にどのカメラを表示するかを設定できます。  
また、この画面からも画面分割の数を設定することができます。

#### ステップ

(1) 「ホーム」→「システム」→「ライブ表示」→「表示」の順に移動します。



図7-20 ライブビュー表示設定

(2) 出カインターフェースの設定をします。

(3) ウィンドウを選択し、表示したいカメラを一覧から選択し、クリックします。

設定が反映されると選択したウィンドウにカメラ番号が表示されます。

※ **+** は画面にカメラが表示されないことを意味します。

(4) [適用]をクリックします。

※  すべてのカメラのライブビューを停止します。

(すべてのウィンドウが **+** 表示になります。)

※  すべてのカメラのライブビューを設定します。現在の設定に関わらず、

強制的にカメラ一覧の表示の上から順番にウィンドウ1,2,3...と割り振られていきます。

## 7. システム

### 7.5. ライブ表示

#### 7.5.3. チャンネルゼロ

画像品質に影響を与えず帯域幅要件を減らすために、WebブラウザまたはCMS (クライアント管理システム)ソフトウェアからリアルタイムで多くのチャンネルのリモートビューを取得する必要がある場合に、チャンネルゼロエンコーディングを有効にします。

#### ステップ

(1) 「設定」→「システム」→「ライブ表示」→「チャンネルゼロ」の順に移動します。



チャンネルゼロエンコーディング有効	<input checked="" type="checkbox"/>
フレームレート	12fps -
最大ビットレート方式	一般的なコントロール -
最大ビットレート (Kbps)	1024 -

適用

図7-21 チャンネルゼロ

(2) チャンネルゼロエンコーディング有効にチェックを入れます。

(3) フレームレート、最大ビットレート方式、最大ビットレートを設定します。

※フレームレートやビットレートを高い数値で設定するには、より高い帯域幅要求を満たす必要があります。

(4) [適用]をクリックします。

## 8. メンテナンス

### 8.1. システム情報

#### システム情報

DVRを構成するシステムの情報が確認できます。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」→「メンテナンス」→「システム情報」に移動します。
- (2) 確認できる情報は「デバイス情報」「カメラ」「録画」「アラーム録画」「ネットワーク」「HDD」の6項目になります。

### 8.2. ログ情報

#### システム情報

ビデオレコーダーの「操作」「アラーム」「例外」「情報」をログに記録し、いつでも確認することができ、エクスポートすることができます。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」→「メンテナンス」→「ログ情報」に移動します。
- (2) 「期間」「メインリスト」「サブリスト」を設定します。
- (3) [全てバックアップ]をクリックします。
- (4) エクスポート先のデバイスを選択し、[エクスポート]をクリックします。

### 8.3. インポート/エクスポート

#### インポート/エクスポート

ビデオレコーダーのカメラ設定等をデバイスからインポート/エクスポートすることで、即座に設定を反映または保存することができます。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」→「メンテナンス」→「インポート/エクスポート」に移動します。
- (2) インポート/エクスポート先のデバイス、ファイルを選択します。
- (3) [インポート]または[エクスポート]をクリックします。

## 8. メンテナンス

### 8.4. アップグレード

#### 8.4.1 ローカルアップグレード

ビデオレコーダーのファームウェアをローカルデバイスからアップグレードします。

##### ステップ

- (1) 「メンテナンス」 → 「アップグレード」 → 「ローカルアップグレード」 に移動します。
- (2) ローカルデバイスを選択し、アップグレードファイルを選択します。
- (3) [アップグレード] をクリックします。

#### 8.4.2 FTP

FTPサーバーに接続し、ビデオレコーダーのファームウェアをアップグレードします。

##### ステップ

- (1) 「メンテナンス」 → 「アップグレード」 → 「FTP」 に移動します。
- (2) 「FTPサーバーアドレス」 を入力します。
- (3) [アップグレード] をクリックします。

#### 8.4.3 オンラインアップグレード

ネットワーク接続しているビデオレコーダーのファームウェアを自動でアップグレードします。

##### ステップ

- (1) 「メンテナンス」 → 「アップグレード」 → 「オンラインアップグレード」 に移動します。
- (2) [最新のアップグレードパッケージの自動ダウンロード] を有効にします。

#### 8.4.4 カメラのアップグレード

ローカルデバイスに保存されたファイルから、接続しているカメラのファームウェアをアップグレードします。

##### ステップ

- (1) 「メンテナンス」 → 「アップグレード」 → 「カメラのアップグレード」 に移動します。
- (2) カメラとローカルデバイスを選択し、アップグレードファイルを選択します。
- (3) [アップグレード] をクリックします。

## 8. メンテナンス

### 8.5. デフォルト

#### ステップ

- (1) 「メンテナンス」→「アップグレード」→「デフォルト」に移動します。
- (2) 「リストア・タイプ」を選択します。

#### デフォルトに回復

ネットワークと管理者のパスワード設定を除き、すべての設定を工場出荷時のデフォルトにリセットします。

#### 出荷状態回復

デバイスを待機状態に戻し、ネットワークとパスワードを含むすべての設定を復元します。

#### 非アクティブへのリストア

管理パスワードを使用しない場合、デバイスを待機状態に復元する以外に、設定は一切変更されません。

- (3) [はい]をクリックします。デバイスは自動的にリブートします。

### 8.6. ネットワーク設定

#### ネットワーク設定

DVRのネットワーク状態を確認できます。

#### ステップ

- (1) 「ホーム」→「メンテナンス」→「ネットワーク設定」に移動します。
- (2) 確認できる情報は以下の3項目です。
  - 1) トラフィック…ビデオレコーダーと接続中のネットワークのトラフィックを確認できます。
  - 2) ネットワーク検知…パケット送信テストを行うことができます。
  - 3) ネットワークの状態…接続機器のビットレートを確認できます。

## 8. メンテナンス

### 8.7. HDDの動作

#### 8.7.1 S.M.A.R.T

HDDの自己診断機能を用いて、HDDの状態を確認できます。

##### ステップ

- (1) 「メンテナンス」→「HDDの動作」→「S.M.A.R.T」に移動します。
- (2) 設定変更および自己診断の手動実行ができます。

##### ⚠注意

自己診断に失敗した場合、このディスクを使用し続けます。の設定にチェックを入れてしまうとHDD故障時にエラー音やアラームが表示されず、録画に支障が出てしまいます。

- (3) [適用]をクリックします。

#### 8.7.2 不良セクタ検出

HDDの不良セクタ検出を行うことができます。

##### ステップ

- (1) 「メンテナンス」→「HDDの動作」→「不良セクタ検出」に移動します。
- (2) 不良セクタを検出するHDDを選択します。
- (3) 検出方法を「すべての検出」「キーエリア検知」から選択し、[自己診断]をクリックします。

##### i 注記

「すべての検出」は診断時間が長時間にわたります。(2TBのHDDで約250分の診断時間が見込まれます。)

## 8.8. システムサービス

#### 8.8.1. システムサービス

様々なシステムサービスの設定を行うことができます。

##### ステップ

- (1) 「メンテナンス」→「システムサービス」→「システムサービス」に移動します。
- (2) 必要に応じてパラメータを設定します。

##### RTSP

RTSP認証を設定することで、ライブビューのストリームデータを特別に保護できます。

## 8. メンテナンス

### RTSP認証

2つの認証が選択可能ですが、セキュリティ上の理由からダイジェストを推奨しています。

### ISAPI

システム機器(ネットワークカメラ、NVRなど)間の通信をビデオレコーダーをサーバーとして使用することで実現します。

### HTTP

HTTPが無効になると、ISAPIやONVIFを含むすべての関連サービスが終了します

### HTTP認証

2つの認証が選択可能ですが、セキュリティ上の理由からダイジェストを推奨しています。

### IPカメラ占有検知

ネットワークカメラの状態を検出します。ネットワークカメラを別のビデオレコーダーで追加した場合は、ネットワークカメラのステータスがオンラインデバイスリストのように表示されます。

(3) [適用]をクリックします。

### 8.8.2. ONVIF

サードパーティー製のデバイスを使用するために必要な世界的に共通なプロトコルを設定します。

#### ステップ

- (1) 「メンテナンス」 → 「システムサービス」 → 「ONVIF」 に移動します。
- (2) 有効化します。
- (3) [追加]をクリックし、ONVIFを使用するユーザーを追加します。
- (4) [適用]をクリックします。

## 9. アラーム

### 9.1. イベントヒントの設定

イベントが発生すると、アラームセンターで詳細を表示できます。

アラームセンターでヒントを出すイベントを選択します。

#### ステップ

- (1) 画面右上に表示されている  をクリックします。
- (2) 「異常」「基本イベント」または「スマートイベント」を選択し、[設定]  をクリックします。



図9-1 アラームセンター

- (3) ヒントにするイベントのチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) [OK]をクリックします。  
選択したイベントが発生すると、アラーム情報が表示されます

### 9.2. アラームセンターでのアラーム表示

#### ステップ

- (1) 画面右上に表示されている  をクリックします。
- (2) 「異常」「基本イベント」または「スマートイベント」を選択してイベントを表示します。

## 10. Web操作

Webブラウザからビデオレコーダーにアクセスできます。

「InternetExplorer11」「Microsoft EdgeのIEモード」でライブビュー出来ます。

※事前にダウンロードされるWebComponentsのインストールが必要です。

サポートされている解像度は、1024×768以上です。

### 10.1. ログイン

お客様は、インターネットアクセスを伴う製品の使用が、ネットワーク・セキュリティ上のリスクにさらされる可能性があることを認識するものとします。ネットワーク攻撃や情報漏洩を防ぐために、お客様自身の保護を強化してください。正常に動作しない場合は、販売店または最寄りのサービスセンターにご相談ください。

#### ステップ

(1) Webブラウザを開き、ビデオレコーダーのIPアドレスを入力し、Enterキーを押します。

#### **i** 注記

HTTPポートを変更した場合は、アドレスバーにhttp://IPアドレス:HTTPポートを入力します。  
たとえば、http: 192.168.1.64:81です。

(2) 「ログインインタフェース」にユーザー名とパスワードを入力します。

(3) [ログイン]をクリックします。



The image shows a login form with two input fields: 'ユーザー名' (Username) and 'パスワード' (Password). Below the password field is a link that says 'パスワードを忘れましたか?' (Forgot password?). At the bottom of the form is a blue button labeled 'ログイン' (Login).

図10-1 ログイン

(4) インストールのプロンプトに従って、プラグインをインストールします。

#### **i** 注記

プラグインのインストールを完了するには、Webブラウザを閉じる必要がある場合があります。

## 10. Web操作

### 10.2. ライブビュー

ログイン後「ライブビューインターフェース」が表示されます。

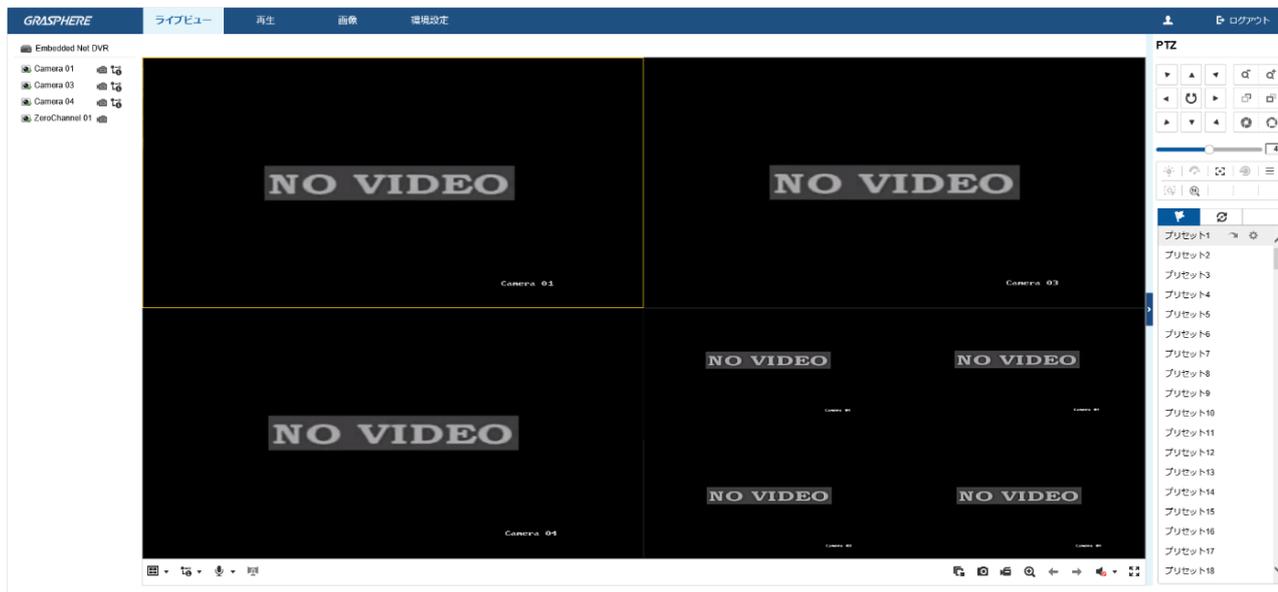


図10-2 ライブビュー

### 10.3. 再生

再生インターフェースを表示するには[再生]をクリックします。

- (1)カメラを選択します
- (2)右側のカレンダーから日付を選択する
- (3)再生をクリックします



図10-3 再生

## 10. Web操作

### 10.4. 構成

[環境設定]をクリックして、設定インタフェースを入力します。

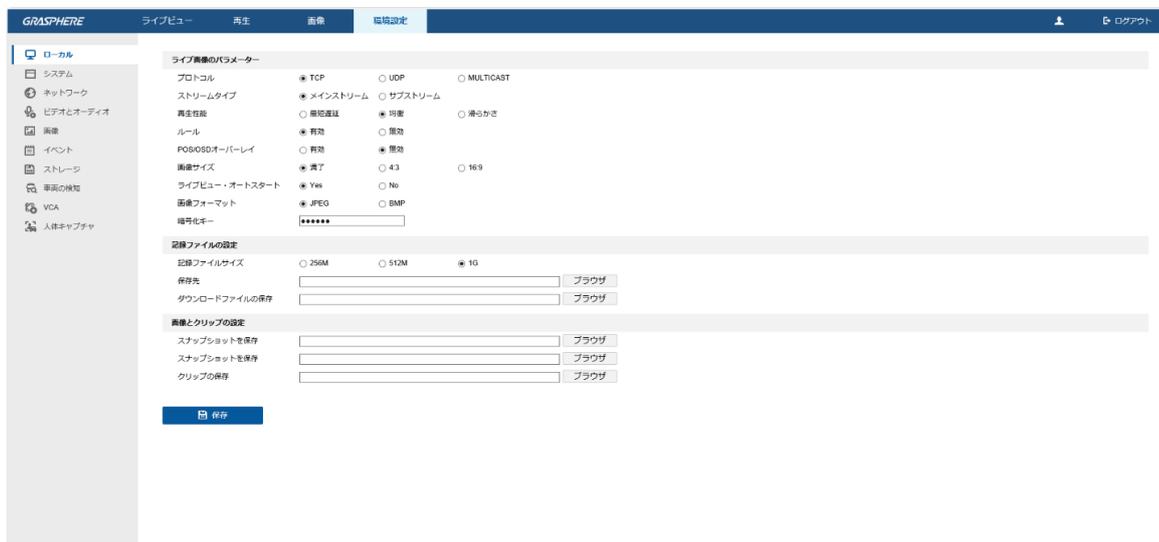


図10-4 構成

### 10.5. ログ

#### ステップ

- (1) [環境設定]→[システム]→[メンテナンス]→[ログ]へ移動します。
- (2) 検索条件を設定します。
- (3) [検索]をクリックします。



図10-5 ログ